2021年 夏号
No.14

# 市美だより

鹿児島市立美術館｜KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館
〒892-0853
鹿児島市城山町４番36号
TEL(099)224-3400

マグマシティ 鹿児島市

展覧会の会期等はすべて、新型コロナウイルス感染症の地域の感染状況により変更になる場合があります。詳しくは美術館ホームページでご確認ください。

## 無料開放日のお知らせ

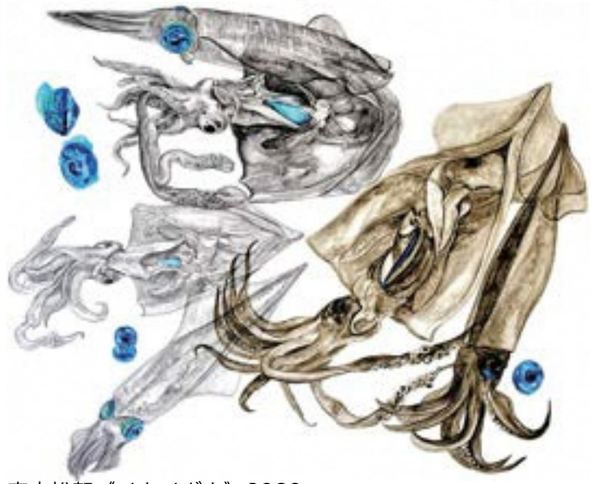
**毎月第３日曜日は、小・中学生は無料開放日です。所蔵作品展 ＋ 小企画展を無料で鑑賞いただけます。**
**９月１９日（日）、１０月１７日（日）…**

予告

## FROM THE EDGE
## フロム・ジ・エッジ
## ―80年代鹿児島生まれの作家たち
## 2021
## 10.1FRI–11.7SUN

鹿児島市立美術館では、秋の特別企画展「フロム・ジ・エッジ―80年代鹿児島生まれの作家たち」を開催いたします。1980年代の鹿児島に生まれ、全国で活躍している作家、また今後の飛躍が期待される作家たちを、地元鹿児島で初めて、あるいはあらためて紹介する展覧会です。タイトルの「フロム・ジ・エッジ」には、日本の南の端から出発し、全国的な活躍をしている若手作家たちという意味合いが込められています。また、先鋭的な表現はしばしば「エッジの効いた」と形容されますが、他と一線を画する個性的な作家たちという含みも持たせています。

現代美術家の髙橋賢悟、版画の芳木麻里絵、油彩の篠原愛、水彩の宮内裕賀、インスタレーションの今和泉隆行、木彫の七搦綾乃、ドローイングの篠崎理一郎の７名（掲載は生年順）をご紹介します。当館では、実に14年ぶりとなる現代作家による特別企画展です。若き感性による新たな表現を通じて、同時代を体感してください。



宮内裕賀《イカイボウ》2020

## 夏の所蔵品展　（西洋美術＋郷土作家＋特集コーナー）

特集：没後100年 橋口五葉②―装飾Nの関心ーデザインの仕事
会期：8月11日（水）～10月10日（日）

常設展示室では、夏の所蔵品展として、印象派から現代までの西洋美術と郷土作家を中心とした近代以降の日本美術の所蔵品をご紹介しています。前回からはじまった所蔵品展の特集コーナーは、今年、生誕140年／没後100年を迎える郷土出身の橋口五葉について、その画業を５つのテーマでご紹介するシリーズの２回目です。今回は、グラフィック・デザインの先駆者として才能を発揮した五葉の装飾にまつわる作品を展示します。デザインの仕事は晩年の木版画と並び五葉の画業を代表するものです。初期に学んだ日本画と美術学校で学んだ洋画の経験、そして西洋の装飾芸術、植物の写生、浮世絵など五葉の多彩な関心から生み出された幅広いデザインの数々をご覧ください。

橋口五葉《此美人》1911年リトグラフ・紙 101.7×71.6㎝

●所蔵品による小企画展

## 比べてみれば
気づきを言葉にしてみよう

**会　期**
**9月10日㈮～12月5日㈰**

**観覧料**
**小中生150円、高大生200円、一般300円**
※　観覧料は所蔵品展と共通。年間パスポートでもご覧いただけます。
※　毎月第３日曜日は小中生の常設展（所蔵品展・小企画展）観覧料が無料です。

複数の作品を比べて鑑賞することで、新たな気づきを体感していただく展覧会です。造形的なよさや美しさを感じ取ったり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えたり、作品を鑑賞して気づいたことを言葉にして、一緒に鑑賞する人と交流してみよう。

## 作品紹介
### アンドレ・ドラン《シャンブールシの風景》

アンドレ・ドランは、20世紀前半に活躍した フランスの画家です。

20代半ばの 1905年、パリで開催された展覧会に出 品した原 色の作品により、マチスやヴラマンクとともに、強 烈な色彩や大胆なタッチを特 徴とするフォービスムの画家として一躍有名になりました。

その後もドランは、さまざまなジャンルの作品に挑 戦しました。セザンヌや黒 人 彫 刻に影 響 を受 け たキュービスム的 な 作品や、ヨーロッパの伝統的な手法による古典主義的な静物・人物・風景画のほか、版画や本の挿絵、バレエの衣装や舞台装置のデザインなども手掛けています。1920 年以降、彼はフランス画壇の中心的存在でした。

アンドレ・ドラン《シャンブールシの風景》1935年頃 油彩・キャンバス 73.0×92.0㎝

1935 年ごろ、50代半ばのドランは、パリの西約25㎞に位置するシャンブールシに移り住み、終の棲家としました。そのころ描かれた本作は、落ち着いた色使いで描かれた古典的な作風ながら、左側の木立とやや傾斜した大地、右側の落葉樹がつくる三角形の構図に、セザンヌからの影響もうかがえます。ドランはフォービスムから次第に離れ、古典主義的な作品を多く残すようになりました。

※ 夏の所蔵品展にて展示中！